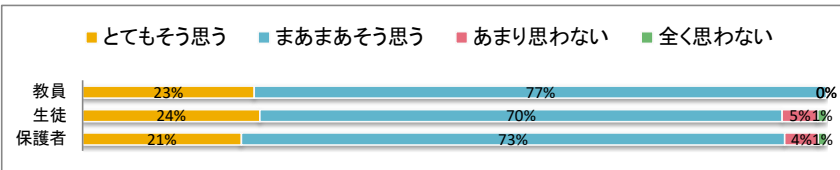


清里町立清里中学校 令和2年度 後期学校評価

学 校

1 学校目標を意識している。

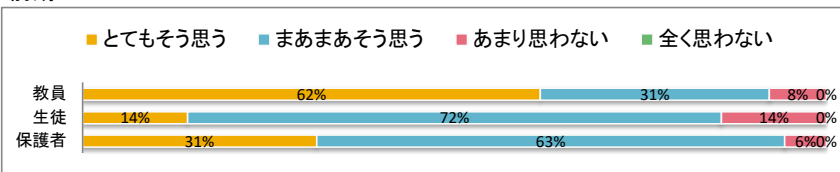
	保護者	3.1	生徒	3.2	教員	3.2
前期		3.1		3.1		3.0



・目標に沿った成長が感じられるという保護者の評価が増えている。より成長が実感できるよう、学校目標の実現に向けて取り組みを進めていく。

2 生徒の思いや願いに寄り添っている

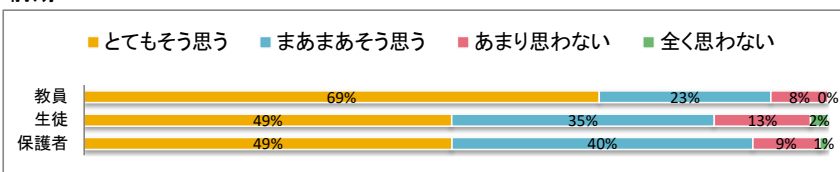
	保護者	3.3	生徒	3.0	教員	3.5
前期		3.3		3.0		3.7



・保護者の「とてもそう思う」が増えている。保護者、生徒がより実感が持てるよう、生徒保護者の思いをよく聞きとりながら、適切な対応をしていきたい。

3 学校に行くのが楽しい。

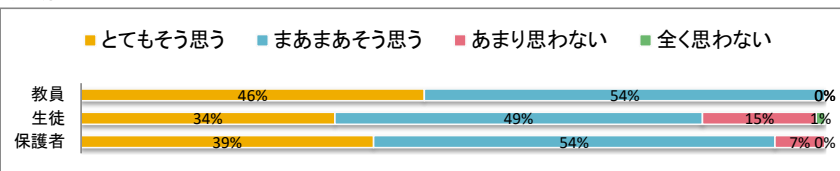
	保護者	3.4	生徒	3.3	教員	3.6
前期		3.3		3.4		3.5



・生徒の「とてもそう思う」が前期よりも低くなっている。普段の生活に目を向け、楽しく意欲的に生活できるよう指導を行っていきたい。

4 先生に信頼して話することができる。

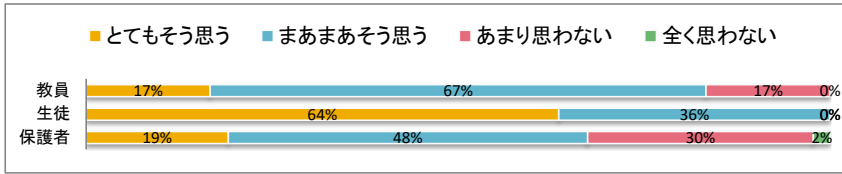
	保護者	3.3	生徒	3.2	教員	3.5
前期		3.2		3.1		3.3



・前期に比べると、生徒、保護者ともに評価が上がっている。生活をともにする時間が増える中で、より一層信頼感を高められるよう、言動や指導内容を考えていきたい。

5 授業が分かりやすく力がつく。

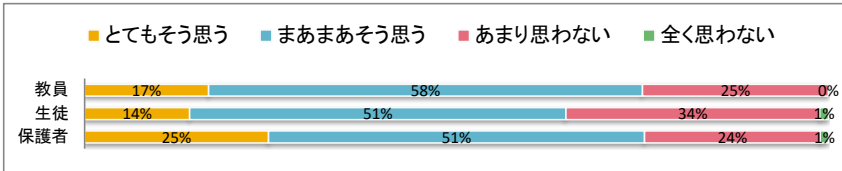
	保護者	2.8	生徒	3.6	教員	3.0
前期		2.8		3.6		3.2



・授業は分かりやすく工夫されているが、学力の向上につながっていないという結果となっている。授業が学力向上に直結するよう、授業改善に目を向け取り組みを進めていきたい。

6 発表活動などに対し、前向きに学習に取り組んでいる。

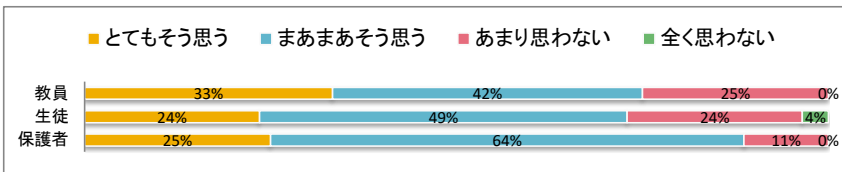
	保護者	3.0	生徒	2.8	教員	2.9
前期		3.0		2.6		2.8



・発表活動の時間を十分に確保できなかったため、良い結果が得られなかった。状況に合わせた指導方法を工夫し、言語活動の充実に取り組んでいきたい。

7 学習の成果を十分に評価されている。

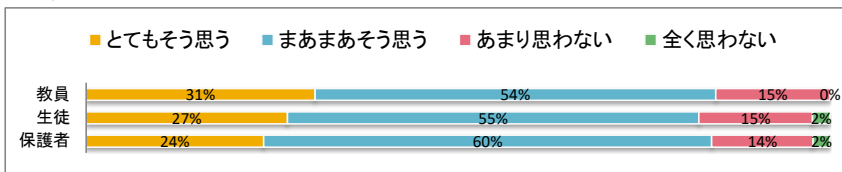
	保護者	3.1	生徒	2.9	教員	3.1
前期		3.1		2.7		2.8



・多少評価が上がっているが、まだまだ課題となる部分である。新指導要領の実施に向けて、指導と評価について事前に説明を行い、十分な理解を得ながら学習に取り組めるよう進め

8 学校からの課題などの量が適切で、意欲的に取り組んでいる。

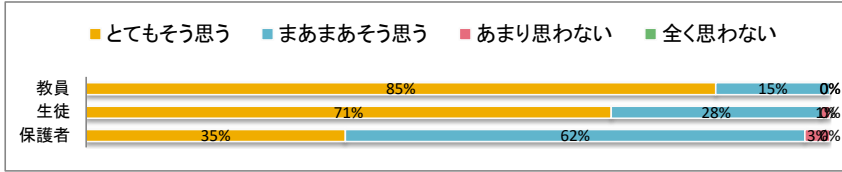
	保護者	3.1	生徒	3.1	教員	3.2
前期		3.1		3.0		3.4



・学習課題や家庭学習が学力向上にどの程度効果があるのかについて検証を行いながら、取り組みを考えていきたい。

9 生命・安全・健康を最優先している。

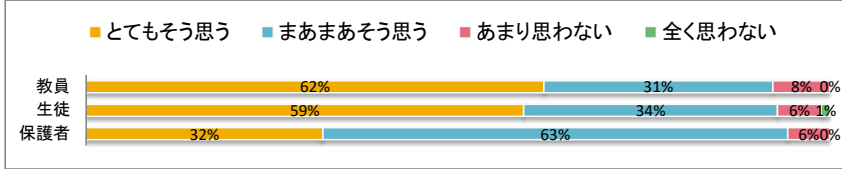
	保護者	3.3	生徒	3.7	教員	3.8
前期		3.3		3.7		3.7



・概ね良い評価を得ている。特に生徒が安心感をもって学校生活を送れるよう、今後も取り組みを進めていきたい。

10 いじめのない学校づくりに取り組んでいる。

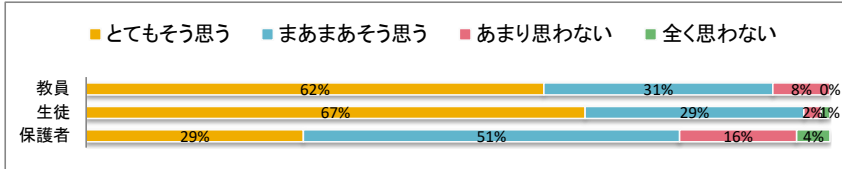
	保護者	3.3	生徒	3.5	教員	3.5
前期		3.2		3.6		3.6



・いじめについて、より意識を高め、普段から生徒の生活に寄り添った指導を心がけていきたい。

11 時間を意識して行動している。

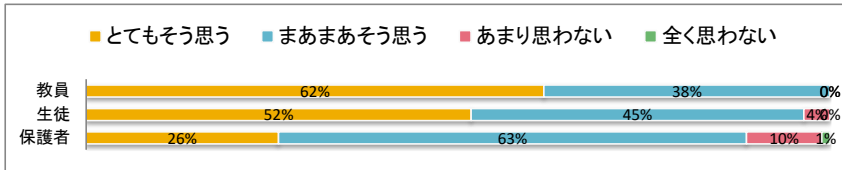
	保護者	3.0	生徒	3.6	教員	3.5
前期		3.1		3.7		3.5



・前期同様、どんな場面でもしっかりと意識した行動ができるよう、家庭と連携を取りながら取り組みを進めていきたい。

12 社会生活のルールやマナーを身につけている。

	保護者	3.1	生徒	3.5	教員	3.6
前期		3.1		3.4		3.4



・上記と同様に、家庭と連携を図りながら、取り組みを進めていきたい。

○学校

・前期同様、生徒の思いや願いが普段の生活に反映されていないという結果となった。多少評価が上がってはいるが、生徒、保護者との対話の機会と時間を十分に持ち、適切な対応を心がけていきたい。それが、意欲的な登校や教員に対する信頼感となってかえってくると考えられる。また、学校目標のなかにある、「たくましく生きる」という点が、清中生の育成の課題であると考えられる。自分の考えをしっかりと持ち、最後までやり抜くという経験を多く積ませ、たくましさを育てていきたい。

○学習

・授業に関しては、わかりやすいという評価を得ているが、それが学力向上の実感として捉えられていないようである。コロナ禍で生徒同士の話し合い活動等が制限されているため、対話的な学びを十分に行うことができないが、自分なりに考え、知識や技能を獲得していくという過程をより大切にしていかなければならないと感じる。学習課題を提示し、見通しを持ちながら自らの学習を構築していくことができるように授業改善に取り組んでいきたい。

○生活

・生命の安全確保やいじめの未然防止について、一定の評価を得られている。今後も、細かな点に注意を払いながら、生徒がより安全に楽しく生活ができるよう、万全の体制を構築し、取り組みを進めていきたい。また、時間を意識した行動や、ルールやマナーの指導に関しては、学校の指導を家庭に十分伝えて連携を図り、いつでもどんな場面でも意識して行動できるように取り組みを進めていきたい。